



8月7日(水)、初声市民センターで、親子海洋教育教室が開催されました。内容は、「煮干しの解剖」、講師は初声中学校の藪崎先生でした。親子27名が参加しました。

先生は、プロジェクターを使いながら、えら、水晶体、脳、心臓、肝臓などの部位を、分かりやすく説明していきます。子どもたちは、煮干しから、それぞれの器官を必死に探していきました。ほとんどのお子さんが、耳石という小さな器官まで探すことができました。それぞれの器官を顕微鏡で見て、歓声を上げる親子もいました。

小学校1年～3年の小さいお子さんも多かったのですが、お母さんたちとともに、一生懸命活動していました。余った煮干しを食べる子どもたちもたくさんいました。

終了後のアンケートでも、すべてのお子さんが、「楽しかった」と答え、親子とも満足して、体験を終了しました。



8月21日(水)、三浦市、逗子市、葉山町合同の初任者研修会が行われ、30名の教員が参加しました。場所は、城ヶ島の、戦時中の地下壕でした。

県立城ヶ島公園の園長さんのご案内で、2グループに分かれて見学しました。

前半は、県立公園を歩き、第一展望台から、房総半島や三浦の海成段丘(海岸段丘)を眺めました。第一展望台の1階は、戦時中、潮位の観測所になっていた

ようで、今でもほとんどそのまま残っています。

後半は、地下壕の見学でした。(他グループは、逆順で回りました)城ヶ島には、2台の砲台があったようで、そこに弾薬を運ぶための地下壕です。弾薬庫は3つあり、通路の長さは、直線で50m以上、当時は、レールが敷いてあり、トロッキが通っていたそうです。弾薬を砲台まであげるために、リフトもあったそうです。入り口は、今でも、迷彩色が残っていて、空から発見されにくくしていたようです。(右の写真)



このような地下壕は、城ヶ島以外にも、岩浦(いわぶ)、高貫(当時はこういう表記だったらしい)、浜諸磯、黒崎に残っているようで、そのほか、市内には、トーチカ、特殊舟艇根拠地なども残っていて、海の守りに占める三浦の重要性がよくわかります。江戸時代にも海防陣屋があった三浦、やはり海とは切っても切れない関係があるんですね。

(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで